



第84号

●主な記事

令和5年度同窓会総会開催
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和5年12月20日発行
一般社団法人 長野高等学校金鷄会
事務局 ☎(026)235-3822
発行人 山口 利幸
編集人 原 良通

URL
<http://www.kinshi.org>
E-Mail
dousoukai@kinshi.org



ご挨拶

本年は夏の猛暑が長期間続いた
うえ、一転して急激に冬の気候に
なるなど深刻化する気候変動に翻
弄されました。同窓の皆様には平

素から同窓会活動にご理解・ご協力をいただいております
こと深く感謝申し上げます。

さて、6月の総会は昨年度の活動と会計報告、本年度
の計画及び予算の承認に加え、コロナ禍が落ち着きを見
せ「5類」に位置付けられたことで、4年ぶりに講演会、
懇親会を含めて完全な形で開催することができました。
担当学年(高39回・高51回)をはじめ参加していただいた
方々に改めて感謝申し上げます。お陰様で順調に予定さ
れた活動を遂行して現在に至っています。また今年の総
会では、昨年の総会で提案しました女性役員(副会長)の
選任について定款などを変更し、繁田美香氏(高27回)と
東京金鷄会から推薦された小西恵氏(高33回)のお二人を
選任し承認をいただきました。この変更の理由は女性の
会員が増加したことによります。今を遡ること70余年前
の1950(昭和25)年、2名の女生徒が初めて新制・長野北
高校に入学しました。以降緩やかな増加が続きましたが、
1975年卒の27回生は女性が10%、高等教育志向が高まる

会長 山口利幸 (高17回)



中で39回生は34%、51回生は41%を占めるなど、年々増
加し現在の男女比はほぼ1:1となっています。したがっ
て、これからの同窓会活動を継続・充実させていくため
には、若い世代ことに女性会員の積極的な参画が必須で
す。今回その体制づくりの一つとして女性の副会長を新
たに選任したこと、加えて「新たに学年幹事を出す学年
は3人のうち少なくとも一人は女性とする」、「今ある幹
事学年は改選にあたり少なくとも一人は女性とするよう
努める」と運用規程も併せて改訂しました。

今後の課題は、若い世代、女性会員が同窓会活動に参



制限なく実施された第75回金鷄祭(6月24日・25日)

画する利点を感じても
らうような仕組み、日
常的に情報の交換と交
流ができるシステム作
りが必要であると思っ
ております。それはま
た同窓会の財務基盤の
強化につながると思っ
ております。

引き続き皆様のご協
力をよろしく願いい
たします。

学年幹事会・同窓会総会開催

令和5年度の同窓会総会は4年ぶりに懇親会まで行う従来どおりの総会となりました。高39回・高51回の皆様に当番学年として仕切っていただき、盛大に開催できました。

今年のトピックとしては、定款を変更し、2名の女性副会長(高27回繁田美香さん、高33回小西恵さん)が誕生したことがあげられます。改選された令和5年度・6年度の新たな役員とともに、金鷄会の新たな一歩がスタートしました。

期 日 令和5年6月24日(土)

場 所 長野市県町 ホテル国際21

出席者 学年幹事会 106名(委任状を含む)

学年幹事会

◇議事

- 第1号議案 令和4年度事業報告・決算報告承認
監査報告
- 第2号議案 令和5年度事業計画・予算案承認
- 第3号議案 定款等の変更
- 第4号議案 役員報酬総額の件
- 第5号議案 令和5・6年度理事・監事の選任

◇令和4年度事業報告・令和5年度事業計画

1. 会館維持運営事業
2. 旧制中学校資料収集事業
3. 高校生の国際理解涵養事業
4. 市民大学開催事業
5. 太陽光発電事業
6. 同窓会事業
 - (1)会報「日新鐘」の刊行
 - (2)支部・同期会・OB会への協力
 - (3)ゴルフコンペ
 - (4)在校生への援助
 - (5)購買
 - (6)日新館事業
 - (7)結婚相談室
7. 総会、理事会、各種会議の開催

◇令和4年度決算・令和5年度予算

○収入の部

(単位:円)

科 目	令和4年度決算	令和5年度予算	備考
正 会 員 会 費	10,783,000	12,000,000	
準 会 員 会 費	2,272,400	2,264,000	在校生
特 別 会 員 会 費	20,000	20,000	旧職員
貸 室 料	1,331,151	1,300,000	
市 民 大 学	0	80,000	
太 陽 光 発 電 収 入	1,514,260	1,400,000	
寄 付 金	2,379,813	1,400,000	
雑 収 入	229,037	50,100	利息・購買
貸付金返済収入	800,000	800,000	長野高校PTA
奨学金貸付金返済収入	100,000	0	池田満寿夫美術奨学金
緑の基金取崩収入	337,590	0	松の剪定
退職金取崩収入	0	300,000	
そ の 他	155	400	
前 期 繰 越 金	19,941,209	19,582,504	
合 計	39,708,615	39,197,004	

○支出の部

(単位:円)

科 目	令和4年度決算	令和5年度予算	備考
会 館 運 営 事 業	4,968,822	4,911,000	給料・通信費・補修費等
旧制中学資料収集事業	0	30,000	
国際理解涵養事業	0	210,000	
市民大学事業	0	129,000	
太陽光発電事業	251,940	253,000	
同 窓 会 事 業	8,287,166	8,375,000	会報発行費・教育奨励費等
管 理 費	5,518,146	5,720,000	人件費・光熱水費・火災保険等
奨 学 金 積 立	100,000	0	
退 職 金 積 立	500,037	200,000	
会館設備補修積立	500,000	300,000	
予 備 費	0	50,000	
次 期 繰 越 金	19,582,504	19,019,004	
合 計	39,708,615	39,197,004	

同窓会総会

当番回期 高39回・高51回

◇学年幹事会・理事会報告

◇記念講演会

演 題 コーヒーと健康と長野高校と

講 師 珈琲豆 新井商店 店主

全日本コーヒー検定委員会

コーヒーインストラクター講師

ブラジル サントス商工会認定 コーヒー鑑定士

新井弘之氏(高39回)

◇懇親会



新井弘之氏 (高39回)



懇親会にて当番学年の引き継ぎ

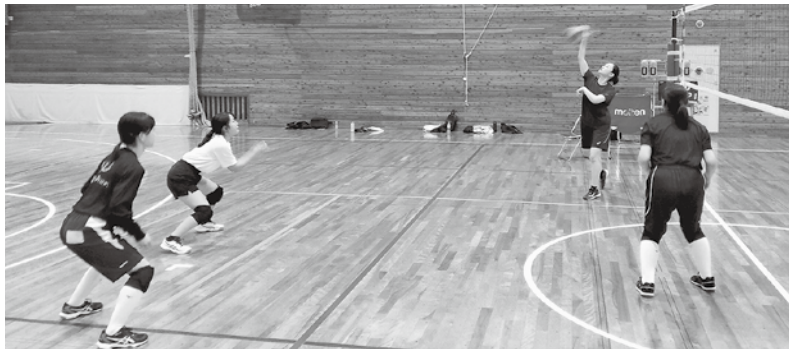
母校近況

● 女子バレーボール班

班長 2年5組 宮澤侑奈

女子バレーボール班では去年の秋から長野西高校と合同練習を行ってきました。他校ということでお互いのスケジュールが合わなかったりしてあまり合同練習ができなかったのでチームワークを作り上げることが一番大変でした。また私個人ではセッターとしてトスを上げる役割になったのですが、私のトスがとにかく短く、レフトまでとばせないことが最大の課題でした。しかしながら大会に向けて練習していくなかで自然と団結力が高まっていき、学校も学年も超えた絆というものが生まれていきました。そしてトスについても通常の練習時のセッター練習を増やしたりOBの先輩方に相談したりしてトス自体の精度を上げ、合同練習ではアタッカーの人たちにどんなトスカ一球一球確認することでアタッカーとの連携も強化していきました。

大会当日、高校生になって初めての大会だったので全然眠れませんでしたし、自分の心臓の音が聞こえるくらい緊張していました。初戦で私は緊張のせいか、いつも通りトスをする事ができず、満足できるものではありませんでしたが、大会に向けて練習していたアタッカーとの連携プレーをして攻撃したり、ミスチーム全体でフォローすることで何とか食らいついて



いきました。

結果は残念ながら初戦敗退でした。もちろん負けたことはすごく悔しかったし自分の実力不足を実感しましたが、それと同じくらい「大会に出られたこと」がすごくうれしかったです。

次の大会では更級農業高校と合同を組んで出場する予定です。このチームでは私がキャプテンとなってチームを引っ張っていくので、チームの柱となれるように日ごろから声掛けを多くしてチームを支えていけるように頑張ります。また大会で満足できるようなトスができなかったので、たくさん練習して圧倒的な自信をもってトスができるようになりたいと思います。ほかにも今回の大会で得たことを糧にして次の新人戦に向けて頑張りたいと思います。

● フォークソング班

班長 2年6組 木内麻結



こんにちは、フォークソング班です！

私たちは現在、1年生18人、2年生16人の計34人、各学年4バンドずつで活動しています。また、顧問は長野高校フォーク班の初代班長でいらした平塚和行先生(高28回)です。

今回はフォーク班の主な活動と魅力についてご紹介します。

まずは主な行事についてです。

金鷄祭では、中庭にて前夜祭・1日目・3日目に3年生のライブ、開祭式での演奏、2日目のうたごえの運営と活躍の場が沢山あります。特にうたごえはフォーク班の一大イベントであり、全校で一緒に盛り

上がることができました。

フォーク班には「ぶっとんびふえすた」という伝統的なライブがあり、基本的に1年生のお披露目、3年生の引退・卒業時の年3回行われています。10月のお披露目ライブでは、引退ライブでの先輩方のかっこいい姿に憧れて熱が上がった班員も多く、1年生も皆クオリティの高い良いライブとなりました。

10月29日に開かれた軽音楽クラブの大会-POWER LIVE KF-にて、私の所属するバンドが審査員賞をいただきました。フォーク班の班室には歴代の先輩バンドの賞状が数多く飾られており、そこに肩を並べることができて良かったです。

次に普段のバンド活動についてです。

私たちは、学校行事以外にもライブハウスという場でプロと同じようにライブをさせてもらっています。特にブッキングを受けて出演する外部ライブでは、共演するのは他校や大人のバンドがほとんどです。お客さんと呼んで自分たちのステージを見てもらったり、友達になったバンドのライブを見に行くという経験は普通の高校生活ではなかなかできないと思います。

本来なら出会わなかったであろう人たちと、音楽を通して繋がることのできる。そんなところに軽音楽の魅力があるのではないのでしょうか。

基本的に長野駅周辺のライブハウスで活動しているので、皆さんもぜひ非日常を味わいにお越しくださいませ。

剣道班

班長 2年4組 久保田航生

私たち剣道班は男子6名、女子3名の計9名で活動しています。今年の総合体育大会では、女子団体が史上初となる北信越大会ベスト8進出を果たすなど多くの好成績を残すことができました。

現在、剣道の競技人口は減少しています。また高校生になってから剣道を始めることに抵抗があるのか、新入部員は決して多くはなく、3



年生が引退して以降は9人で活動しています。しかし少人数であることを前向きにとらえ、一人一人が真剣に剣道と向き合い、日々充実した稽古をすることができています。

先日行われた北信大会新人戦では、個人戦において男子主将の森廣くんが前回の総合体育大会に引き続き優勝し2連覇を果たし、女子主将の沖田さんが3位入賞したほか、団体戦では男子が3位入賞、女子が4位入賞することができました。男子団体戦は準決勝で惜敗し決勝進出とはならなかったものの、優勝校を相手

に最後まで勝敗が分からないような接戦を繰り返すことができ、女子団体戦は最大5人で出場できるところを3人という人数的不利を抱えた中でも健闘して、いずれも好成績を残すことができました。その後の県大会新人戦では、個人戦において森廣くんが準優勝、沖田さんが3位となったほか、団体戦では男子が準優勝で北信越大会出場という好成績を収めることができました。これは日々の練習の成果の現れであり、今後のさらなる躍進を目指す上で大いに意味のあるものになったと思います。

今後の目標としては、さらに高みを目指し全国大会を見据えています。そのために今回の結果に決して満足することなく、仲間たちと互いを高め合って、より一層研鑽を重ねていきたいです。

そして何より私たちが満足に剣道に励むことができるのは、応援してくださるOB・OGの方々や、日々支えてくださる先生方、保護者の方々の力添えがあってこそのものであるので、感謝の気持ちを忘れることなく、結果を通して恩返しをしていきたいと思えます。

● 定時制 Edible School Gardenの活動について

定時制 教諭 北島匡晃

定時制では、3年前から1・2学年の総合的な探究の時間に、『Edible School Garden ～ 野菜を植えて学校に活力を！～』をテーマに、外部講師として本校同窓生の坂口則夫氏(有ズーニィ・カンパニー)にご指導をいただきながら、雑草が生茂る中庭の空き地を菜園にする活動に取り組んでいます。栽培した作物は、北信地方の固有種である里芋“善光寺”をはじめ、原種に近いトマト、ジャガイモ、トウモロコシなどで、収穫後は実際に調理し試食を行いました。そして、種の保存や食と人の生活について様々な視点から学習しています。

本年度は、同窓会から資金援助をしていただき、人通りの多いテニスコート横に石灰岩質のブロックで区画を作り、ブルーベリーと四季なりイチゴを植えたガーデンを造成しました。この新たな活動は、英国ヨークシャー西部の町トッドモーデンで起こった“インクレディブル・エディブル・トッドモーデン”という“食”に関わる革命を学習したことがきっかけです。その革命とは、第二次世界大戦後、荒廃し犯罪が頻発する町と化してしまったトッドモーデンが、一人の女性が始めた公の土地に自由に食べられる野菜を栽培するという活動を発端に、その活動が地域全体に広がり、人々の意識を前向きに変え、その結果、地域特有の新たな



農製品、酪農製品を生み出し、町の経済を大きく発展させたというものです。

トッドモーデンで起こった素晴らしい運動を長野高校という学びの場で実践し、そこで生活する人々の心を癒し、さらには学校全体の活力を向上させる一助になればと考え活動しています。このガーデンの造成にあたっては、生徒自身がガーデンの意義を考え、設計図を作成し、作業を行いました。そして、この新たなガーデンを“Edible Wonder! Garden”と命名し、立て看板を設置し、今後は“誰でも自由にお食べください”という意味のメッセージを発信します。ご来校の際は、中庭、テニスコート横の“Edible Wonder! Garden”を是非ご覧いただき、食していただければ幸いです。

最後に、本活動の実施に際し、同窓会より多大なるご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。



支部・同期会・OB会だより



東京長高金鷄會 春の講演会

梅雨入りして間もない6月10日(土)、東京長高金鷄会の春の講演会が、東京・大手町経団連会館にて行われました。出席者はリモート参加者12名を加えた62名。コロナ禍以前の人数には及ばないものの、先輩後輩、同期の絆を確かめ合うには十分と感じられる参加者が集いました。

今回のプログラムは、江藤浩之氏(高33回、京都大学iPS細胞研究所・大学院医学研究科教授、千葉大学医学研究院イノベーション再生医学分野教授)による「iPS細胞がもたらす未来の可能性」とのテーマでの講演と、硬式庭球班OBによるパネルディスカッション。

江藤氏の講演は、京都大学の雰囲気、ノーベル賞の山中伸弥教授が創設したiPS細胞研究所の立地から始まる懇切丁寧かつ身近なものに喩えた分かりやすい解説で、iPS細胞が何たるかの根本的なところが理解できるもので、再生医療はどこまで進んでいるのか、そもそも細胞とはどういうもののかなど、その研究の奥の深さと未来に広がる可能性が存分に味わえる内容でした。

現会長山内雅喜氏(高31回)が班の創始者である硬式庭球班のパネルディスカッションでは、創部当時の苦労話から現在に続く活動の歴史を振り返りつつ、第1回OB会総会の開催が宣言されました。班OBの山本昇平副幹事長(高57回)が交流を続ける現役顧問のお一人である志津享先生のリモート参加により、現役班員が練習するテニスコートと会場を繋ぐオンライン中継が実現。現在の校舎、生徒たちの生き生きとした生の姿など、その雰囲気が会場に伝わってきました。

講演会に続き、恒例の「山また山」の斉唱で始まった懇親会での充実した時間も瞬く間に過ぎ、和田照子幹事長(高40回)による副幹事長紹介の後、「信濃の国」の斉唱で会を締めくくりました。

(高36回 松宇正一)

令和5年度同窓会総会の当番と高39回懇親会

6月24日(土)、令和5年度金鷄会同窓会総会が長野市のホテル国際21で盛大に開かれました。まずは卒業時のクラス責任者などによる「プロジェクトチーム」を構築し、着実に準備を進めてもらった理事の関武志君、学年幹事の保科正徳君、丸山和俊君に感謝いたします。出席者を募るため、実家への電話やLINEグループ立ち上げなど地道な取り組みが実り、当日は多くの参加者が集まりました。

総会後の講演会では、高39回の新井弘之君(珈琲豆新井商店店主)が「コーヒーと健康と長野高校」というユニークなタイトルで演台に立ちました。新井君の店には普段から訪れる同窓生もいて、いわば情報交換の場でもあります。コーヒーインストラクター講師など様々な肩書を持つ新井君の軽妙な語り口は、心地よい喫茶気分を運んでくれました。

高39回生の懇親会は長野駅前のロジック長野で開かれました。この会場からの合流者もいて、参加者はなんと約100人に。卒業時のクラスごとに分かれてテーブルを囲みました。そしてまたなんと机の上には卒業アルバムの集合写真が。久しぶりの再会に花を添える演出に多くの歓声が上がっていました。

我々高39回ではゴルフコンペや夜の懇親会など有志が定期的に集まる場面が少なくありません。こうした集いが今回、





合唱班OB・OG会

合唱班OB・OG会 カイトソサエティ

多くの出席者に恵まれたことに一役買っているかもしれません。その中心メンバーとして常に苦勞されている平野聡君には、照れながらも感謝の言葉を贈ります。そして、総会の場を提供していただいた事務局や理事の皆様はこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

令和9年には卒業40周年の同窓会が予定されています。懇親会では再会を誓い合い、校歌斉唱で締めくくりました。

(花岡秀則)

8月11日(金：山の日)、長野高校合唱班OB・OG会「カイトソサエティ」は第1回となる『山また山の日集い』を、レストランやまで行いました。

この会は長野高校合唱班・女声合唱班のOB・OG会が数年前に再編成され、混声の「新生カイト」となって、母校創立120周年記念特別演奏会や、毎年の現役定期演奏会への賛助出演など、節目ごとに合唱活動を行っています。

このほど、今後のカイトソサエティの継続と発展を願い、年一度の定期的なOB・OGの集いを「山の日に校歌の『山また山』を歌おう!」と計画し、実現したものです。

今回は高14回から高74回までの60年にまたがるOB・OG40名余りが集まり、世代を越えた幅広い会員が一堂に会して校歌や愛唱歌を歌い、情報交換を通じた交流ができました。

混声合唱曲「鷗」は三好達治が大戦で亡くなった多くの人達への鎮魂の思いを込めた詩ですが、終戦記念日の折り、相応しい選曲で、皆、心を熱くして歌っていました。普段離れていても集まればすぐに厚いハーモニーが奏でられるこの会の底力が感じられ、運営陣の若い層への引き継ぎを含めこれからへの期待を持つことができました。

毎年8月11日には、この集いが恒例行事として開かれ、独自の演奏会などについても企画し、持続的な発展を目指して参ります。会員の皆さま、同世代お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますよう、引き続きよろしく願いいたします。

(高22回 塚越憲二)

籠球班OB会

6月24日(土)長野駅東口「松栄寿司」にて、「令和5年度籠球班OB会総会」を開催しました。原哲夫氏(S28卒)、松井忠夫氏(S32卒)、山口盛雄氏(S39卒)、東京在住で前会長の松岡憲四郎氏(S40卒)をはじめ幅広い年代から22名の参加がありました。

開会にあたり塩入信一会長(S45卒)は、「5年ぶりに集まることができて嬉しい。私立高校の台頭で現役の戦績は厳しいが、長野県1位だった伝統を伝え、一層の活躍を期待し応援していきたい」との挨拶がありました。

議事では、令和4年度事業報告、現役への支援を充実させることを盛り込んだ令和5年度事業計画案が全会一致で承認されました。今年はOB戦や新年交流会の再開も計画に盛り込みました。

引き続きの懇親会は、試合や練習の思い出を振り返りながら限られた時間いっぱい親睦を深め、最後に恒例の籠球班歌を合唱し、現役の県大会優勝、会員の健康を祈念しつつ閉会しました。

(平成4年卒 小原克彦)



籠球班OB会



硬式庭球班

貪欲で優秀な長高生はいつの時代も健在であり、それは懐かしくもあり、我が身が引き締まる思いでもあった。

祝杯をあげるべくOB・OGは夜の懇親会に席を移した。様々なバックグラウンドの諸先輩方に囲まれ、思いもよらないつながりから新たなビジネスが生まれる予感さえあった。社会学者マーク・グラノヴェッターの提唱した「弱いつながりの強み」とは正にこのことであり、眼前に価値のある繋がりが広がっていく様に深い

硬式庭球班OB・OG会

8月11日(金)に第1回硬式庭球班OB・OG会が開催された。初めての試みに紆余曲折を経ながらの開催だったが、ふたを開ければ、20人以上の現役生、総勢60人規模の大規模なOB・OG会となった。実行委員の現会長山内雅喜氏(高31回)、松宇正一氏(高36回)、顧問の井出先生、志津先生のご協力なしには実現し得なかった。改めてこの場を借りて感謝申し上げたい。

昼の部は、硬式庭球班創立メンバーでもある山内雅喜氏の挨拶から始まった。細かな出費に頭を悩ませることなく、のびのびと練習に励んでほしいという願いを込め、OB・OG会から現役生へボールを寄贈した。

テニスの部ではOB・OG対現役生の団体戦を開催した。OB・OGはこの日に備えてみっちり練習されたと見受けられ、万全の仕上がりで現役生に対抗した。団体戦は大人の意地でOB・OGの辛勝。

テニスを通じて現役学生とOB・OGの緊張の糸もほぐれ、コミュニケーションも活発に行われた。現役生からはテニスのみならず、進路や勉強方法などの相談もあり、彼らとしても実りのある時間があったのであれば、とても喜ばしいことである。

感慨を覚えた。

また何より心が動いたのは、OB・OG会の設立は長年の夢であったとこぼしてくださった先輩の言葉である。この繋がりは絶やすまいと心に決めた。(高57回 山本昇平)

高53回 卒業20周年記念同窓会

去る8月12日(土) ホテルメトロポリタン長野にて高53回の卒業20周年記念同窓会を開催致しました。本来であれば卒業20周年に当たる2年前に開催される予定でしたが、コロナ禍のため2年延期となって本年の開催となりました。新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着きを見せ、今年の5月に感染法上5類に移行となりましたが、果たして多くの同窓生が集まってくれるのだろうかという一抹の不安を抱えながらも、学年幹事、クラス幹事を中心に準備を進めて参りました。

お陰様で当日は先生方を含め総勢126名が参加し、盛会となりました。始まってしまえばあっという間の2時間で、想定していたよりもだいぶ時間が押してしまいましたが、まだまだ時間が足りないくらいでした。開催したことに感謝の声などもいただき、準備もコロナ禍以前に開催されたものを踏襲するわけにもいかず手探り状態で苦労した部分もありましたが、長期間に亘る準備の苦労も報われた気がしました。次



高53回



管弦楽班OB会

回の学年の同窓会は何年後になるかわかりませんが、また節目で開催できればと思いました。

なお、今回は残念ながら当日不参加だった多くの同窓生からもご寄付をいただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。当日参加者の分と合わせて諸経費を差し引いた残金は全て金鷄会に寄付させていただきましたので、こちらも併せて報告させていただきます。(幹事 宮野尾昌平)

管弦楽班OB会

8月13日(日)、同窓会館に今年もまたOB・OGが集まり愉しく合奏いたしました。指揮は山本昇先生(高5回)、演目はベートーヴェン交響曲第5番「運命」第一楽章、モーツァルト交響曲第31番「パリ」、同アイネ・クライネ・ナハトムジーク(現役生)でした。今年も、毎年参加して下さるプロ奏者の桐山建志さん(ヴァイオリン・高38回)に加えて、同じくプロの飯島多恵さん(ヴァイオリン・高31回)も初参加、会に華が添えられました。後半はベートーヴェンの弦楽四重奏や、コレッ

リのトリオソナタなどを有志が披露し、これを有志現役生が即興MCで盛り上げてくれました。

近年、OB会の「後期」高齢化がますます進み、U-22でなくO-60の常連さんだけの参加になっている傾向を打破するべく、来年は試しに9月シルバーウィークに時期を移した上で、(山本先生が「まだ一度も指揮したことがない」と仰る)モーツァルトの「ハフナー」交響曲を予定したいと思います。OB・OGの皆さん、今からさらって老いも若きも多数ご参加ください。(高34回 北原啓祐)

高18回 喜寿記念同窓会

高18回卒業生の同窓会「高一八金鷄会」は9月27日(水)にホテルメトロポリタン長野にて同窓会を開催しました。これまでは5年ごとに周記念として開催していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大で延期を余儀なくされ、今回は7年ぶりの同窓会です。仲間の多くが喜寿を迎える年回りとなり「喜寿記念同窓会」として開催しました。ご担任の西村善次先生、



高18回

母校同窓会の山口利幸会長にもご臨席いただき60人の参加で盛会となり、懐かしい仲間たちと元気に再会できたことに感謝しながら楽しいひと時を過ごしました。

高18回生は1966年(昭和41年)3月の卒業で、全日制467人と定時制70人の合計537人、後に団塊の世代と呼ばれ、創立120周年を超える母校の歴史で最多だったかもしれません。このうち331人とは現在も連絡が取れていますが、94人が他界、112人が住所不明の状態となっています。今も現役で仕事や研究を続けている人、地域の活動やボランティア活動などで社会貢献している人もいます。一方で病気の治療や療養中のため同窓会に参加できなかった人たちもいます。どうかお大事にして健やかに過ごしていただけるよう祈念しています。(佐藤 寛)

高32回8組 梨本先生叙勲米寿祝賀の集い



高32回8組

8月12日(土)長野駅前の宴席油やで高32回生8組の同級会を17名で開催しました。この会は、私達が還暦を迎えたことを恩師の梨本先生が祝ってくださるということで開催を計画したのですが、コロナ禍のために開催のタイミングを見極めている間に、先生の米寿と瑞宝小綬章叙勲の吉報が届き、それぞれのお祝いを兼ねて行われました。

先生は88歳のご高齢とは思えない矍鑠とした若さで、会場まで大きな額に入れた勲章と賞状を持参して私達にご披露していただきました。ご挨拶の中では80歳まで国語の教師として教壇に立たれていたことや、還暦を過ぎてからの有意義な人生の過ごし方がどれ程重要であるかを、ご自身の幼稚園長エピソード等を交えながらお話をいただきました。また、叙勲祝いの菊の紋章入り高級ボールペンを出席者等全員分もご用意いただきました。

私達のクラスは49名のうち3名が東大進学、4名が医師というそれなりの結果を出していますが、これも梨本先生の優れたご指導の賜物であったと



近畿長高金鷲会

いうことを、時を経て再認識した次第です。

2名が亡くなられ、7名が連絡不能で、当日は16名が参加しましたが、ちょうど親の介護や自身の健康問題で出席が叶わなかったり、仕事や子供の祝い事等の関係でどうしても都合がつかなかったりと事情は様々でした。

出席者達は本当に卒業以来会う者もいましたが、40年超の歳月を物ともせず、すぐにあの若かりし日に時空を超えて、懐かしい話に花を咲かせました。髪が白く薄くなったことや、下っ腹が出てしまったことを笑いながら、卒業後のお互いの人生の歩みについて語り合いました。

二次会には13名が参加してさらに盛り上がり、2年後の開催と次期幹事も決定して散会となりました。梨本先生は100歳を超えて長生きするとおっしゃられていましたので、今回はさらに大勢の参加者で盛大に行われることを期待しています。(幹事 柳澤幸弥、西澤佳代)

近畿長高金鷲会 今年の活動と近況報告

今年は阪神とオリックスが共に優勝、再来年には万博も控え、関西は活況を呈しています。ヴィッセル神戸が初優勝しましたが、ジャニーズに続いて私が住む宝塚市では歌劇団の事件が大きく報道されています。ちなみに劇団の学生を朝晩の通勤時に見かけます。

令和2年から始まったコロナ禍では総会やイベントが中止となりました。当時の野池会長から活動に替わる集いの場として、Zoomミーティングを開催するので段取りするよう、ご指示をQWにいただきました。当初は毎週～今年夏まで1か月に一度と定期的に開催し、高齢の方にも多く参加いただき、近況報告や問題提起、アドバイス、たわいのないお話をし、毎回お元気な姿を拝見しておりました。ある日、参加が野池会長と私だけのことがあり、日頃の報告や〇〇さんはお休みなどと話した後に「そろそろ次の会長をやってくれないか」と突然、引継ぎの申し出がありました。ここで抵抗しても他に替わりの方もいないだろうと、お受けいたしました。というわけで、9月30日(土)の総会で皆さまから承認をいただきました。これからよろしく願いいたします。

関西の活動は若手会員の参加が少なく、高齢の方がコロナで出歩かなくなったので、多くの方にこの会に参加してもら

うことが私に与えられたミッションと考え、これらに取り組んでいこうと思います。まずは簡単ではございますがご挨拶申し上げます。(近畿長高金鷄会会長 高31回 風間和仁)

高15回 卒業60周年同期会総会

校の益々の発展と今回さまざまな事情で参加できなかった方々も含めた同期生の末長い多幸を祈念してエールを送り、会を閉じました。

廣田昌彦校長先生および同窓会の事務局の皆さんには、事前に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

(高野忠夫)



高15回

高15回生の同期会総会を10月14日(土)、ホテルメトロポリタン長野で、全国各地から73名の参加を得て昼食会形式で行いました。

日本の高度経済成長期に就職し、各界各層各分野で身を削って奮闘してきた434名の同期生の内、既に約2割の方が他界しておられることに、激動であった来し方の厳しさを感じた次第です。黙祷。

会場に校旗幕が掲揚され、合唱班OBによる校歌とかつて厳しく絞られた懐かしい応援歌が流れ、在校当時の同期生の活躍が掲載されている「長高新聞」の拡大コピーが多数掲示される中、卒業して60周年・10回目となる記念すべき節目の総会開催は大いに盛り上がりました。

コロナ禍のために延期を重ねた後の久しぶりの開催でしたが、お互いに人生の年輪が刻まれた表情に、かつて青春を共にした頃の顔が重なり懐かしく、至福の会話が会場に溢れた総会となりました。

野球班が41年ぶりに夏の甲子園大会に出場して、今年話題になった慶応高校に惜しくも敗れたのは、我々が3年生の時です。

当時の応援団長である五明昇君の指揮で校歌を斉唱し、母

高17回 同期会

10月15日(日)、高17回の同期会を4年振りに開催しました。

私たち同期17回生は、終戦の翌年にこの世に生を受けた者たちで、今年七十七歳の喜寿を迎えます。所謂「団塊の世代」が始まる前年の生徒です。生徒数444名、うち女子生徒が21名でした。現在の生徒の男女比を考えると、まさに隔世の感があります。

入学した年は、長野高校の野球部が甲子園に出場した年でした。入学早々の応援練習では、全員グラウンドに並ばされ本当にしぼられました。多くの生徒たちと共に県大会、そして甲子園に応援に行った記憶が鮮明に残っています。そして3年の秋には東京で「第18回オリンピック競技大会」が開催され、授業中にもかかわらず、胸に入れた鉱石ラジオで実況放送を聞いたものでした。皆部活にも励む、個性あふれる優秀な仲間たちでした。

そして大学へ進学。1969年1月東大安田講堂占拠、幾多の大学がバリケード封鎖される等、70年安保闘争で騒然とした大学時代後半を過ごし、社会へ。人の一生を「ゆりかごから



高17回

墓場まで」と言いますが、それに関わる医者や僧侶から、生活を支える本当に多くの業種で重責を担い活躍した同期の仲間たちでした。

今その職務から解放され、地域での活動或いはボランティア、また趣味の会とそれぞれに生き活きと活動を続けている様子。近況や来し方を声高に語り合う彼らの顔には、溢れんばかりの笑顔がありました。(幹事 小掠真道)

ESS班OB会開催 in 長野

10月28日(土)昼、善光寺そばのイタリアンレストランを貸し切ってESS班OB会を開催しました。

なお、ESS班とは、シェークスピアの戯曲を使って英語を学び、金鶏祭でその劇を演じるのが主な活動でした。その準備に昔は夏休みがあてられていました。夏休みに準備活動ができた先輩たちの結末は未だ強く、東京では毎年OB会が開かれているようです。



参加者は私を含め7名で、うち4名は同期で今年1月にも顔を合わせていました。しかし、私にとって残りの後輩3名とは約40年ぶりの再会となります。店に入って来られたときは関係の無い人が来たなと思う人もいましたが、話をするとその声でただちに後輩と分かりました。このギャップがOB会の楽しみの一つでもあります。その一人は、同窓会ホームページのお知らせ欄を見て、東京から急遽参加してくれましたので、短期間の掲載にもかかわらず、ウェブサイトの絶大

な効果を感じました。

会場では飲み放題のビール、ワインなどのアルコール類の他、持ち込んだワインや店長が差し入れてくれた長野の日本酒と美味しいイタリアン料理を楽しみました。近況の話、特に子供の話や高校時代の思い出話が盛り上がり、時間を忘れて過ごしました。そういえば班活動の話はほとんど出ませんでした。その後は全員でカラオケ店に行き、高校当時流行った歌や、はやりの歌などを歌ってまた盛り上がりました。最後に再会を約束しておひらきとなりました。

(幹事 高32回 小林克行)

高25回 卒業50周年同期会

10月29日(日)、長野駅前ホテルメトロポリタン長野にて長野高校25回生卒業50周年同期会を開催しました。50周年の節目ということもあり、120余名の同級生が恩師と共に一堂に会し、盛大な会を催すことができました。会場の換気、出席者の検温等感染対策を講じながら無事開催できたことは喜ばしく思っています。

会は記念撮影から始まり、開会宣言の後、7名の恩師と25名の同級生の物故者黙祷、会長挨拶と戸谷精三金鶏会学年理事報告の後、ただ一人ご参加いただいた恩師の原哲夫先生(高5回)への謝辞、記念品贈呈をいたし宴会となりました。

昨今の閉塞感のあった社会状況も相まっての久しぶりの再会、仲間との会食、そして大勢の仲間との会話などはどの顔にも笑顔が溢れていました。吹奏楽班有志による金管五重奏の重厚な演奏を除けば、終始個々の歓談が続き大変リラックスした雰囲気の中、あっという間に3時間ほどが過ぎた気がします。北から赤木弘喜君、南から吉江則彦君、オーストラリアから藤田昌夫君の出席を得、貴重なスピーチが新鮮でした。

原先生は90近い年齢にもかかわらず壇上にて約20分以上立ったままで我々に語り掛けてくださったことには敬服しました。

昔は「人生50年」といった時代もあったのでしょうか、皆安堵の表情を浮かべながらもどの顔も生気に満ちて安心しまし





た。50周年を節目に幹事会の閉会をいったんお伝えしましたがまた集まることを熱望し、盛会のうちに閉会しました。

(会長 飽田英史)

高13回 東京長高36会 秋の集い

東京長高36会秋の集いは、11月7日(火)正午からKKRホテル東京にて開催された。当会は、第1回が昭和57年1月22日(金)赤坂山王飯店で行われ、以後毎年1回開催されている。今回は通算41回目の開催となった。この日は朝から雨が強く、足元が懸念されたが、会の始まる12時には、すっきりした青空となり、48名が参加した。

秋の集いは「白鳥の間」で開宴され、司会安達堯昭君進行のもと、最初に物故者を偲び黙とうを捧げた後、幹事長高池勝彦君の開会挨拶、乾杯へと続いた。その後、立食にて各々が高校時代の青春の思い出を語り合い、旧交を温めた。

宴半ば、今回の唯一の出し物、丸山巧君の神風流詩吟が披露された。頼山陽作「川中島」鞭声粛々〜が朗々と吟じられ、喝采を浴びた。

最後に県歌「信濃の国」と校歌「山また山」を全員で斉唱した。語り合い、杯を重ねるうちに、アツという間に予定の2時間が過ぎてしまった。

締め、人生100年時代を迎え、80歳を過ぎた今、さらに90歳、100歳、あわよくば30年後まで健康であり、長高36会を続けられますようにとの挨拶がありおひらきとなった。(佐藤禎二)



高9回 長野北ラス会

晩秋の11月8日(水)、長野北ラス会を長野市内のホテルで開催しました。私達は66年前の昭和32年3月に最後の長野北高を卒業した超高齢者で、既に三分の一近くが故人となっています。しかし毎年長野と東京で同期会を開催しています。今回も県外から駆け付けた13名を含めて40人が集まりました。更に母校から廣田校長先生と金鶏会の原事務局長様においでいただき、後輩の文武両道にわたる活躍をお聞きして喜

びを深くしたところです。

私達の北ラス会が長期間続いてきたのは人一倍愛校心に溢れるF君のお陰です。卒業後各地に散らばった仲間の動向を把握しながらネットワークを作り上げ、北ラス会を誕生させた功労者です。卒業後の節目の年には彼が中心になって皆に呼び掛け原稿を集めて記念誌を発行し、物故者の法要を営んできました。会への出席者は長野、東京とも70名を超えた時もありましたが、年と共に減少しています。しかし現在でも30～40名の出席があります。

私達は昭和20年4月に国民学校(小学校)に入学し8月に終戦となったので戦争の記憶があります。今回の北ラス会資料にも多くの会員から「父親が戦死して苦しい生活を送った、長野市も空襲を受け危険を感じた、食糧難が辛かった、戦争は最大の悲劇だ」等の声が寄せられました。先の大戦が我が国の最後の戦争であることを願いながら今年度の長野北ラス会を閉じました。(清水 浩)

中高金鶏会総会 10年ぶりの開催

11月15日(水)、中野市の割烹「柳長」にて第16回中高金鶏会総会が総勢30名の出席を得て開催されました。昨今のコロナ禍の影響、また諸般の事情により10年振りの開催となりましたが、金鶏健児の心意気が発揮され時間も忘れて盛大に挙行されました。

今回は小林勇生会長(高13回)の発案により、中野西高校長

などを歴任され、現在本会の会長で、また中野市に縁がある山口利幸氏(高17回)を来賓に、そして記念講演の講師にお招きしました。中高金鶏会として本会の会長のご参加を得たことは初めてであり、感慨深いものがありました。

講演は、「長野高校の今！」と題して一時間近くにおよびお話しいただきました。未だ長野県ナンバーワンの高校であることは教職員の皆様のご努力・ご指導の賜物であり、近年男女比が逆転した年があったことには驚きました。

さて、総会に小林会長がサプライズで欠席されましたが、会長の独断と偏見により清水春樹氏(高17回)が会長に指名され、了承されました。

懇親会では中野市出身の衆議院議員篠原孝氏(高19回)の発声により始まりました。冒頭、若い年齢順に自己紹介がありま

した。年少の40歳から年長の82歳まで幅広い年代が参加しましたが、会場のご厚意により飲み放題ということもあり、和気あいあいと進みました。終盤は、早川豊氏(高16回)、前澤憲雄氏(高19回)の両応援団長の70代とは思えぬ昔と変わらない若さあふれるエールで、校歌ならびに応援歌を全員で行った斉唱は街中に響き渡る勢いでした。

予定時間をだいぶオーバーしましたが、次回の再会を約して解散となりました。

最後に今後の課題ですが、会員の高齢化、そして高校入試の学区制、%条項等による中高地区の卒業生の減少による会員の減少が顕著であります。少しでも会員数の増加を図りたいと思います。(高21回 鈴木富夫)



旧制中学時代の入試問題

写真は中等学校入学試験「讀方豫習書」附大正十二年度入学試験問題と題する尋常小学国語読本の解説書です。高29回の名田部瑞穂さんが同窓会に寄贈してくれました。東京の古書店で見つけたものだそうです。

この解説書に大正12年の全国中等学校入学試験の問題が付録として付けられており、長野中学校の入試問題も掲載されていました。その中から、初めの3問を取り上げてみます。長中28回生(大正12年度入学生)が受けた入試問題です。

いかがでしょうか。次号でつづきを掲載したいと思います。



次ノ文ノワケヲ書キナサイ。
 一、他人の悪事短所をあざけり笑ふは、己の品位を下す所以なり。いはんや我に優れる人をねたみ、其の聲譽を傷けんとして笑ふ者に於てをや。
 二、人生の長短は事業の大小を以て量るべく、年齒の多少を以て量るべからず。之を思へば、一寸の光陰も輕んずべからず。
 三、次ノわけヲ書キナサイ。
 満目總べて花なり。心ばかりの祝宴。一笑に附して顧みず。成否は今より豫測すべからず。一事が萬事。



回期別対抗ゴルフ・コンペ

同窓会主催のゴルフコンペが9月23日(土)長野カントリークラブにおいて、89名参加のもと新ペリア方式で開催されました。成績は下記の通りです。

- 個人優勝 東澤 知哉(高63) グロス80 ネット69.2
- 個人2位 長田 国雄(高24) グロス98 ネット70.4
- 個人3位 西村 博行(高19) グロス85 ネット70.6
- 団体優勝 高25(横山博道・矢島茂・藤沢敏彦)
- 団体準優勝 高34(渡辺和彦・山岸賢治・船崎康正)
- 団体3位 高29(原良通・小山良一・神林孝男)
- 団体4位(高27)／団体5位(高26)／団体6位(高11)／団体7位(高20)
- 団体8位(高37)／団体9位(職員)／団体10位(高19)／団体11位(高24)
- 団体12位(高23)／団体13位(高22)



個人優勝の東澤知哉さん(右)副会長の小西恵さん(左)



団体優勝高25回の皆さん

市民大学事業

金鶏会館連続公開講座

公開
講座

主催：東京大学史料編纂所(担当：古代史料部門、「天皇家・公家の「知」の体系化としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクト)
 協力：一般社団法人長野教育文化振興会、一般社団法人長野高等学校金鶏会
 後援：長野県長野高等学校

於 金鶏会館 大講義室

古典から読み解く歴史学・文学—「いま明かされる古代50&中世・近世」

第1回 9月23日(土)【第331回講演】

東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授 田島 公 先生
 「ヤマトタケルと甲斐・科野」
 —倭王権の「東方十二道・東国」進出伝承の再検討—

第2回 10月14日(土)【第332回講演】

富山大学 学術研究部 人文科学系 教授 鈴木 景二 先生
 「江戸人の善光寺・草津温泉旅行」
 —観光コースと関所抜け—

第3回 11月18日(土)【第333回講演】

早稲田大学 文学学術院 教授 川尻 秋生 先生
 「信濃源氏・平賀義信と初期鎌倉幕府」

第4回 12月2日(土)【第334回講演】

東京大学大学院 人文社会系研究科 基礎文化研究専攻
 美術史学講座 教授 高岸 輝 先生
 「中世絵巻に描かれた寺社巡礼と信濃・善光寺の聖域」
 —「一遍聖絵」遊行上人縁起絵巻を中心に—

第5回 1月20日(土)【第335回講演】

早稲田大学 文学学術院 教授 河野 貴美子 先生
 「空海がもたらしたものの、生み出したもの」
 —九世紀初頭の「文」の風景—

第6回 2月24日(土)【第336回講演】

信州大学 大学史資料センター 特任教授 福島 正樹 先生
 「人々はどのように税を納めたか」
 —古代の調庸制を中心に—

第7回 3月2日(土)【第337回講演】

東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授 田島 公 先生
 「言問橋」「言問通り」の地名の由来と『武蔵国浅草寺縁起』



結婚相談室のご案内

相談日は
水曜日です

1. 相談日時 原則として水曜日のみ 10時から16時まで
2. 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めております。

ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談にお見えになっても結構です。

ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL 026-235-3822(平日14時～19時)

E-mail dousoukai@kinshi.org http://www.kinshi.org



長野高校吹奏楽班OB・OG
第55回定期演奏会

日時 令和6年3月30日(土)
 13:30 開場 / 14:00 開演
 会場 ホクト文化ホール 中ホール 入場無料
 曲目 ・ベートーヴェン／エグモント序曲
 ・リード／アルメニアンダンス パート1 ほか
 皆様のご来場、また多くの吹奏楽班OB・OGの皆さん
 のご参加を心よりお待ちしております。

池田満寿夫ギャラリー

金鶏会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点
 余り、常設展示しております。
 ぜひ、ご覧にお越しください。
 (平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。)



令和5年度同窓会費(3,000円)の
納入をお願いいたします。

今年度の会費未納の方に振込用紙を同封いたしました。
 ご協力をお願いいたします。

送金方法

- ①同封の振込用紙を使う
 振込用紙はコンビニ・郵便局どちらでも利用できます。
- ②用紙を使わずネットバンキングやATMで銀行への振込み
 下記の口座へお願いいたします。なお、その際はお名前とともに卒業回期または振込用紙に記載のお客様番号を入力してください(同姓同名さらに同字の方もおいでになるので)。

八十二銀行 長野北支店 普通 133722
 一般社団法人長野高等学校金鶏会
 長野信用金庫 城北支店 普通 0031958
 一般社団法人長野高等学校金鶏会

寄贈図書



新 弁護士読本
 弁護士十年一人前論
 著者 才口千晴氏(高9回)



獣でもなく機械でもなく
 一人間力アップの時代—
 著者 矢澤俊彦氏(高13回)



海の上を歩かねば
 一洪水も我が魂に及ばず—
 著者 矢澤俊彦氏(高13回)



医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY
 2023年6月号～12月号
 野村元久氏(高10回)寄贈



百歳の翁
 ～懐かしい、また楽しい日々～
 小山信二氏(高22回)寄贈



俳句と遊ぶ
 著者 中村千久(光宏)氏(高22回)



珠寶舞踊九十年
 恩田亘氏(高23回)
 (三代目 五條珠寶)寄贈



女と男のはなし
 ～町の音楽教師から見た世の中～
 著者 草の実アイ氏(高24回)

ご寄付をいただきました。

- ◇高15回 卒業60周年 10万円のご寄付をいただきました。
- ◇高18回 喜寿記念 20万円のご寄付をいただきました。
- ◇高53回 卒業20周年 252,342円のご寄付をいただきました。
 卒業生の卒業証書ファイル購入資金として使わせていただきます。
- ◇匿名の同窓生の方から、80万円のご寄付をいただきました。
 この方からは今年で3年続けてご寄付をいただいています。
 120周年記念事業の「金鶏太陽光」奨学金に上乘せする形で使わせていただきます。

ありがとうございました。

美術室前スロープについて(補足)

前号で紹介した美術室前スロープですが、その実現に池田満寿夫氏(高4回)の思いが直接反映したかのように紹介したことは正確性に欠けるものでした。校舎改築については、当然当該の教科(美術科)の先生が直接的には関与しており、美術室の高い天井についても床を下げる工夫を提案し、それが校内委員会さらに県教育委員会で受け入れられて現在のようになったものです。池田氏が抱いていた高い天井を持つ旧校舎の美術室への思いと現在の美術室とに共通するものがあのスロープにはあると表現すべきでした。改めて記しておくところです。

西武ドラフト5位指名 宮澤 太成さん

高70回の宮澤太成さんが、今年のプロ野球ドラフト会議で西武ライオンズから5位指名を受けました。校舎昇降口には懸垂幕が飾られました。

長野高校出身のプロ野球選手誕生は、高4回町田行彦さん(国鉄スワローズ)、高4回松橋慶季さん(阪急・国鉄、セリーグ審判)、高6回山岸静馬さん(高橋ユニオンズ)以来、60数年ぶりとなります。宮澤さんがこれから活躍されることを期待し、応援しましょう。



- コロナ禍の3年間を経て、社会の活動が少しずつ前に戻ってきたこともあり、同窓生の皆さんの集まりも復活してきました。今回の日新鐘ではそんな姿を紹介しています。他にこんな集まりをしているといった情報があれば事務局までお寄せください。
- 同窓会は同窓生の縦横のつながりを支援するとともに母校の発展に寄与することが大きな目的です。そのため多くの皆さんの力を結集して現在まで来ました。しかしながら今、社会の変化に伴い同窓会の運営が曲がり角にきている感があります。世の中のDX化に合わせてシフトチェンジが必要ではないかと考えています。先を見越して同窓会のあり方等を模索していきたいと思っております。ご提案があればお寄せください。
- 令和6年度同窓会総会は、6月29日(土)ホテル国際21において開催予定です。当番回期は高40回・高52回の皆様です。よろしくお願いいたします。

高11回 同期会

3年前、傘寿を前に卒業60周年の案内発送寸前にコロナの蔓延拡散によりやむなく中止に至った同期会を沈静化の傾向が見えた間隙を縫って5月11日(木)に開催した。

開催を決断した時点での物故者130名、返信からは本人や伴侶が病んでいる、更に5名が鬼籍に入られたとのご遺族からの返信といった厳しい現実、前回から5年間の空白が恨めしい。

キャンセルが5名もあり上山田温泉上山田ホテルに集った49名は盛会とっていいのか…。亡き旧友のご冥福を祈り黙とうを捧げ、幹事の事情説明、記念撮影の後祝宴に移った。在籍時女性5名のうちこの日唯一人参加された高崎(町田)さんのご発声で祝宴に入った。容姿、体力は如何ともしがたいが心意気は65年前の少年そのものの群れと化した。

当時の生徒会長新保君のリードで校歌斉唱のあと初期の同

期会に尽力をされた水上、山下両君の発声で締めた。

当初今回あたりが…といった空気が更に続けて開催を、との雰囲気変わったときであった。

今まで、同窓会会報に寄稿を差し控えてきた11回生ですがここで少しPRを。

同期会開催

1983年(卒業24年)を第1回とし、卒業後節目の年度および参加の都度、宿泊11回、善光寺で物故者法要2回
当初と近年は11月11日を同期の日とし、日帰り開催11回
そのほか田中秀征君、鷺澤正一君の支援に同窓生を煩わすこと数回

社会活動

2011年3月25日 東日本大震災に義援金100万円

2019年12月 台風19号豪雨災害に長野市へ義援金30万円
等々

(内山 威)



高19回 同期会

我々19回生は、「人生ひとやすみしながら」という名目で「一休会」という名称を付けてコロナ前までは毎年同期会を開催してきました。しかしコロナ期間中は開催を見送らざるを得ませんでした。

本年は3年ぶりに9月16日(土)長野駅東口の「茶寮志もだ」に36名が集いました。

最初は同期の有志で組織している「一休会しのはら後援会」

を開催し、衆議院議員篠原孝の国政報告を受けました。

その後一休会総会を行い、過年度の事業報告・決算報告に続き、今後の活動方針案・予算案に賛成をいただきました。ただ今後の開催頻度は3年に一度程度としました。従来年会費として集めていた

資金も協賛金と名前を変えて随意性を出すようにし、終活の方向を探り始めました。長年運営してきた一休会ホームページも閉鎖することいたしました。

その後懇親会を行い、大いに飲み語り合い、最後に応援団OBのリードで校歌を歌い、エールを実施して散会となりました。

翌日には年2回37年続いている一休会ゴルフコンペを実施し、14人が集いました。

(一休会会長 北澤眞一)

